

平成24年、文庫は静岡県知事賞（教育学術文化スポーツ功労賞）と野間読書推進賞（団体の部）を受賞した。18年の間、合計7カ所の家で引き継いできた無償の活動が評価されたのだ。しかし、てんとうむし

ここに来れば本がある

配置や利用法にさまざまな工夫がある。
例えば、光ヶ丘の文庫では、本を借りたり、独自に開く「おはなし会」に参加してスタンブやシールがもらえるお楽しみもある。「楽しいところに来ているという気持ちになってほしくて、本の思い出と楽しかった思い出が結びついて、『本は楽しい』となってくれば…」。そんな温かみのある文庫には、本当に本が大好きな近所の子どもたちだけでなく、文庫を待ち合わせの場所にしたたり、本を借りずにちよっと覗いたりなど、いろいろな子どもが立ち寄っている。



光ヶ丘の文庫。

文庫のスタッフたちは「自分たちは、あまり特別なことだとは思っていません」と気負いなく語る。彼女たちにとっては、それくらい子どもも本も自然な存在なのだ。
「子どもって、現実と本の世界を自由に行ったり来たりできる。子どもたちは、本を読み終えた時に、安堵したような顔で見つめてくれることがあります。そんな時、『あつ、向こうの本の世界から帰ってきたんだな』とわかるんです」と、段さん。
本は、現実では不可能なことを体験させてくれるもの。その時、手に取った本が、自分の心にどう響くか、出会ってみなければわからない。



芙蓉台の文庫。

玄関から続く廊下や小部屋に本を設置。「私は物語が好き」「私は面白い本!」と、子どもたちは思い思いに本を手にとっていく。

「ここに来れば、ごく普通に本があつて、本が読める。そういう場所であり続けたいですね」
彼女たちが引き継ぎ、守り続けるのは、子どもと本という二つの宝物が、特別ではなく自然に出会える場所なのだろう。



何の本にしようかな

関連info

絵本を通して親子の絆を強めるブックスタートとセカンドブック

赤ちゃんの体の成長にミルクが必要なように、赤ちゃんの心と言葉を育むためには、抱っここの温かさの中で優しく語りかけてもらう時間が大切だと言われています。三島市立図書館では、保健センターで行われる3カ月児健康教室に参加するすべての赤ちゃんを対象に、ブックスタート、さらにブックスタートのフォローアップ事業として、2歳児健康相談会に参加する幼児を対象にセカンドブックを実施しています。これらの事業は、絵本を通して保護者と子どもが楽しいひと時を持ち、絆を強めてもらうことを目的に、絵本やアドバイス集、おすすめ絵本リストをプレゼントするものです。

お問合せ/三島市立図書館 TEL:055-983-0880



みんなが守り引き継ぐ、街のおうち図書館

読書

06



てんとうむし文庫運営

今西 美子さん 段 千恵子さん 亀井 由科里さん

玄関が図書館

玄関を開けると、棚に並んだたくさんのお本が、みんなの来訪を歓迎してくれる。三島市には移動図書館車「ジンタ号」もあるが、ここは、その場でゆっくり本も読める、地域の子どもた

ちのための家庭文庫だ。
「てんとうむし文庫」は、平成5年に段千恵子さんが中心となり発足させた、「絵本を楽しむ会『てんとうむし』」が始まり。ここでは普段の育児のなかで近所の親子数人が集まり、わらべ歌や絵本を楽しんでいた。翌年、子どもたちに本を貸し出す家庭文庫の活動が始まった。
当初、段さんの自宅1軒だった文庫は、転居を機に文庫をする家は3カ所に分散。以後も文庫を運営する家の転居等で何度か移転を余儀なくされながら、そのたびに誰かが志と本を引き継ぎ、存続させてきたのだ。
現在、文庫を開いているのは、段さんと亀井由科里さん、今西美子さんの3人。それぞれ芙蓉台、光ヶ丘、佐野見晴台で週1度、夕方の2時間だけオープンする。約2000冊ずつ擁する本は、市立図書館からの団体貸し出しのもの以外、期限は設けず、何冊でも借りられる。もちろん、利用料はかからない。また、それぞれの文庫によって、